

植松正 ちゅうしょう 犯罪心理学・刑法學者、隨筆家、文學博士。明治二十九年一月二十一日千葉縣東金生れ、平成十一年二月二日没（一九〇六—一九九一）。小學校を卒業し、大藏省で給仕をしながら夜學に通ふ。この間同人雜誌を編輯、小説、短歌なども手を染め、大正十一年にはオルツイ作「トコイ卿の妻」を、『紅ハコヅ團』、『恐怖の巷』といふ二冊物として綴譯出版した。その後會社勤務に轉じ、傍ら夜間の日本大學豫科に通ひ、哲學、美學を學ぶ。更に松本亦太郎に就き、心理学を専攻。卒業後昭和四年高等學校卒業檢定試験を受け東北帝國大學に入學、中途法津學專攻に轉じて十年卒業。司法官試補となり、檢事、判事を經て臺北帝國大學教授に任じた。戦後再び檢事、判事を務め、二十五年一橋大學教授、四十四年退官後辯護士開業。隨筆も能くし、豫て油繪を執筆す。著書に『犯罪の心理』（昭和二十二年八月二十一日民生書院）、『民族と犯罪』（昭和二十二年十一月十五日有斐閣「新日本刑事學叢書」）、『去日來日』（昭和五十一年十一月二十五日勁草書房）等。

去日來日

植松正著

勁草書房